

平成23年度 佐賀市立城東中学校 学校評価計画

1 学校教育目標
夢を持ち、夢を追う生徒、根のわかる、根になれる生徒、感動できる生徒の育成

2 学校経営ビジョン
統一した生徒像・教師像・保護者像・学校像 ① 夢を持ち、夢を追う生徒 ② 根のわかる、根になれる 生徒・教師・保護者・学校 ③ 感動できる 生徒・教師・保護者・学校

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
1 学びあいを柱とした学習指導の充実 2 わかろうとすることを大切に学習指導の充実 3 心に響く生徒指導の充実 4 心を耕す教育活動の充実 5 美しい環境整備の推進 6 同じ方向をめざす学校・家庭・地域の教育力の向上	1 学力の定着を図るため、家庭学習充実の手だてを工夫する必要がある。 2 朝読書に読み聞かせなどを取り入れ、情操面を一層育て、落ち着いた雰囲気です授業へ入ることができるようにする。 3 生徒達が自分に自信と誇りを持つような活動を、一層取り入れることで明るく活動的な学校生活を送れるようにする。 4 食育として、きちんと3食摂るように指導をする。 5 小・中連携をより充実させ、城東中学校の魅力を情報発信し、入学者増加の工夫をする。

5 総括表

① 安全・安心な学校運営の推進と家庭・地域連携の強化

	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
学 校 運 営	○ 学校経営方針	・学校教育目標や学校経営ビジョンの周知	・教職員、生徒、保護者に学校教育目標や教育ビジョンを広く知らせる。特に、学校教育目標については、保護者への周知率を85%以上にする。		・学校目標を校内に掲示するとともに全校集会において心に響くように説明する。 ・学校だよりやPTA総会、ホームページ等あらゆる機会を通して、各方面に知ってもらうよう努める。
	○ 安全な学校づくり	・危機管理体制の整備	・校内外における生活事故・交通事故発生件数の前年比20%以上減にする。		・危機管理マニュアルの見直し検討を行う。 ・校内安全点検を毎月行い、改善が必要な箇所は短期間の内に改善する。 ・校外における危険箇所等について、PTAや地域住民から情報収集を行い、生徒への指導に役立てる。
	○ 家庭・地域社会との連携	・開かれた学校づくりの推進	・学校の様子に関する周知率を85%以上にする。		・城東校区地域教育推進プロジェクト事業において、学校、家庭、地域の協力のもとで生徒の成長を支援する。 ・学校からの各種だより、ホームページなどで情報発信をするとともに学校評議員会、PTA各種会合、地区懇談会、民生委員会などあらゆる機会を通じて周知に努める。 ・校長たよりを校区内の各地区で回覧できるように配布し、学校の様子を校内の人々に知ってもらうように努める。 ・携帯メール配信事業の登録を90%以上にすることで学校の様子に関する周知率を高める。
	○ 小中連携	・小学校との連携の充実	・城東中学校への進学希望者を90%以上にする。		・城東校区地域教育推進プロジェクトを組織し学校連携において職員の合同研修を充実させることで学力や生活の充実を図る。 ・小学生の授業体験や部活動体験、ふれあい体験を充実させる。

② 個々の生徒に応じた教育活動の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
教 育 活 動	● 学力向上	・学びあいを柱とした学習指導の充実	・「学び合い学習」づくりを進め、自己肯定感を実感できる学習活動を展開する。 ・県の学習状況調査において、各教科で県平均以上の通過率を目指す。		・授業の中に少人数のグループ学習を組み込み、クラスの中で生徒同士の関わり合いを増やしていく。 ・全職員が早めに臨場し、チャイムと同時に授業を開始・終了するとともに校内巡視を継続する。 ・朝の読書を毎日実施し、静かな環境の中で「学び」の場の始まりをつくる。
	○ 生徒指導	・心に響く生徒指導の充実	・問題行動等の発生件数を前年より10%以上減少させる。 ・不登校の生徒数を前年より10%以上減少させる。		・月毎に生活アンケートを行い、生徒の実態把握に努め個別の対応に役立てる。 ・定期的に生徒指導に関する会議を開き、情報を共有化して、予防的・積極的な生徒指導の充実を図る。 ・不登校(傾向)生徒に対してチームで対応するグループローラー作戦を展開する。 ・毎朝、生徒玄関での挨拶運動を行い、生徒への声かけを継続するなど、自己肯定感を高める指導をする。 ・生徒会の積極的な自治的活動を指導・支援する。
	● 心の教育	・心を耕す人権・同和教育の推進	・自己肯定感を高め、自他を尊重できる生徒を育てる。 ・アンケートに「学校生活は楽しい」と答えられる生徒を90%以上にする。		・差別の現実と深く学びながら、差別を見逃さず、差別を許さない、差別と闘うことのできる生徒を全教科・全領域で育てる。 ・人権・同和教育の授業実践、人権講話、人権作文・標語などに取り組み、身の回りにおける課題に気づきあい、その解決に取り組むことにより自治意欲・自浄能力を高める。 ・参加体験型学習や構成的グループエンカウンターなどの手法を取り入れた学級作りをする。
	● 健康・体づくり	・主体的に取り組む部活動の充実	・生徒の部活動出席率を90%以上とする。		・生徒が互いに励まし合い、認め合いながら、自信と誇りをもって日々の活動に打ち込むことができるよう指導支援する。 ・生徒のバランスのとれた生活や成長のために、休養日や練習時間を適切に設定する。
	● 健康・体づくり	・食に関する教育の充実	・朝食を食べてくる生徒の割合を95%以上にする。		・朝の健康調査を確認する。 ・朝食の重要性について、計画的に指導するとともに、保護者にも協力依頼を継続する。
	○ 中1選択制充実(少人数指導・TT指導)	・1年生における少人数・TT指導の充実	・「授業がわかる」という生徒の肯定的評価を85%以上にする。		・入学後4～5月に学習習慣を確立させる指導を行う。 ・授業に関する情報交換などを密に行い、指導方法の改善に取り組む。
	○ 環境整備	・環境整備の推進	・前年度に比べ、教室環境・掲示物などがよく整備され、環境美化に積極的に取り組んでいると感じる生徒を85%以上にする。		・1学期城東校区地域教育推進プロジェクト事業において、校区内のクリーン大作戦を行う。 ・2学期に全校生徒・全職員・保護者によるクリーン大作戦を行う。 ・生徒が制作した絵画を展示したり、学年で統一した掲示物を工夫するなど環境整備を推進する。 ・生徒の手による「花育」を実践する。